

「古賀会長とニューリーダーとの直接対話(KNT47)in 北海道」

連合北海道 青年委員会は、3月7日(土)15時から「古賀会長とニューリーダーとの直接対話(KNT47)in 北海道」を開催し、11産別29名(うち女性5名)が参加した。

連合北海道工藤会長の開会あいさつ後、連合本部 古賀会長から「連合の活動方針策定に、いろいろな声を吸い上げていく必要があります、対話活動に力を入れ、①構成産別との対話、②非正規労働者との対話、③青年労働者との対話の3つを柱として取り組み、その一環として KNT47 を立ち上げ、全国を巡回している」との説明があった。その後、3つのテーマに沿って、参加者から率直な意見を伝えた。



緊張気味の参加者たち



にこやかに対応する古賀会長

1つ目の「若年層の活動の活性化について」では、「若年層の組合員は組合へのありがたみが薄く、組合活動に消極的」「職場などの悩みや不安を出し合い共有することが組合活動の原点だと思うが、業務が忙しく余裕もなく、そこが出来ていない」などの声が上がった。古賀会長からは「まず青年は主体性を持ち、『自分達の問題は自分達で解決する』という強い気持ちで仲間と討論することが必要。組合運動の原点である世話役活動にもっと重点をおき、組合員に近づく姿勢が必要。」などのアドバイスがあった。

2つ目の「連合に期待すること、連合ブランドをいかに確立するか？」のテーマには「連合が労働組合の連合体であるという理解がされていない。多くの組織が集まっている優位性を生かした活動が必要」「連合のイメージはレクを中心とした交流活動。もっと職場での悩みなどを共有できる場にすべき」との意見が出され、古賀会長からは「全ての組合員が連合を意識することが重要なのではなく、それぞれの位置で労働組合の必要性を感じる事が大事である。仲間の声に依拠した活動が必要であり、悩みを共有できる場などコミュニティーを作っていくことも重要」と助言を受けた。

最後に北海道の独自テーマの「若年層の政治意識の高揚にむけて」について、「北海道では青年層の政治への関心を高めるため、青年選対を立ち上げ活動を行っている」「今の政治は若者向けの政策が少なく、自分達に関係あると思えず、興味を持たない仲間が多い」などの意見が出た。

古賀会長からは「日本人は他人任せの気質があり、これを変えていかなければならないが、そもそも、政治家は国民の声を基に政策を考えなければいけないし、国民も政治に参画することは権利かつ義務という意識を持って政治に関わっていかなくてはならない。青年から政治に関心を持つための取り組みとして、青年選対の活動は全国にも広げていきたい」などの返答を受けました。



古賀・工藤 両会長と 参加者のみなさん